

8 腎疾患の新しいバイオマーカー L-FABP の有用性

富士レビオ株式会社
 学術サービス部
 吉尾 仁美

日本透析医学会の慢性透析患者に関する基礎集計によると、慢性透析患者数は毎年増加しており（314,180名/2013年12月）、糖尿病の三大合併症の1つである糖尿病性腎症が透析導入患者の主要原疾患として約40%以上を占めている。現在、糖尿病性腎症を含めた腎疾患の根治的治療薬は無く、病態や進行リスクを早期に把握することが課題とされている。

尿中 L-FABP（L型脂肪酸結合蛋白）は、2011年8月に保険収載された新しい腎疾患のバイオマーカーである。L-FABP は腎臓において近位尿細管に特異的に発現する分子量約 14kDa の可溶性蛋白質で、生理的には腎臓の再吸収機能を担う尿細管においてエネルギー及び脂質代謝に重要な働きをしていると考えられている。これまでの腎疾患の検査項目に加え、新たな指標として注目されている。

その臨床的意義は慢性腎臓病（CKD）や急性腎障害（AKI）など、腎疾患に関わる領域で広く検討されている。例えば糖尿病性腎症の第1期（腎症前期）および第2期（早期腎症期）などの患者において、尿中 L-FABP の高値群はその後の腎症進行率が有意に高かったことから、糖尿病性腎症の病期進行リスクの判別に有用であることが示唆された^{1,2)}。

従来、尿中 L-FABP の測定は ELISA 法のみであったが、弊社では CLEIA 法であるルミパルスシステムに搭載可能な試薬を開発し、2015年7月に販売を開始した。今後、幅広い医療機関において、腎疾患の病態把握、リスク管理に尿中 L-FABP が活用されることを期待している。

- 【参考文献】 1) Nielsen SE, et al., Diabetes Care. 33: 1320-1324, 2010.
 2) Kamijo-Ikemori A, et al., Diabetes Care. 34: 691-696, 2011

【製品概要】

製品名	ルミパルス L-FABP
製造販売認証番号	227AAAMX00021000
包装単位	14テスト×3
測定原理	CLEIA（化学発光酵素免疫測定法）
測定範囲	0.5 ～ 400 ng/mL
相関性	$y = 1.02x - 0.06$ (x; 既存 ELISA 法、y; 本法)
測定システム	ルミパルス G1200、ルミパルス G600II

※別売品 ルミパルス L-FABP L-FABP キャリブレーション... 3濃度×1
 LPコントロール・L-FABP ... 2濃度×2

ルミパルス L-FABP と既存 ELISA 法との相関

